

「キリスト教学校教育」2026年3月号 特集『平和教育の実践』加盟学校アンケート 回答一覧(2)

3、礼拝・授業・行事を通じて行われている／行われてきた平和教育の実践を ご紹介ください

小学校：P.1-2 中学校・高等学校：P.2-9 大学・短期大学：P.9-11 学園：P.11

※ 回答の終わりにある()内は、学校が所属する教育同盟の地区名

〔小学校〕7件

- ◇・「沖縄平和学習」高2生による「語り部」を初等部のホームルーム礼拝にて実施。
 - ・ハンドベルクワイヤー（3～6年生）が、学内外演奏曲にて「Song of Peace」奉鐘を通して、賛美と祈りを合わせ深める機会となりました。（関東）
- ◇礼拝：認定NPO法人ADRA Japan 事務局長による開発途上国教育支援についての礼拝
本校のクリスマス礼拝では、開発途上国への教育支援を目的とした献金を継続して行っている。毎年クリスマス礼拝前の11月下旬にADRA Japanの事務局長によって、文字を読めることや知識があることによって命が守られることや、子ども達の献金によって教育を支援できることをお話しいただいた。（関東）
- ◇・9月の礼拝では毎日平和の讃美歌を歌う。
 - ・5、6年生の総合授業では、戦争の話、原爆の話、等体験談や活動団体の方を招いて特別授業を行っている。（関東）
- ◇〔イースター礼拝〕子どもたちは自宅からお花を持ってきて祭壇前にささげます。そのお花を束ねて、近隣のお世話になっている方々（駅、病院、消防、自治会その他）にお届けしています。
 - 〔収穫感謝礼拝〕子どもたちは秋の収穫物を、祭壇前にささげます。集まった野菜や果物をまとめて、関係のある施設にお送りしています。
 - 〔クリスマス〕ちょっとした焼き菓子を子どもたちにプレゼントするのですが、それと同じものを、東日本大震災で被災した福島の4つの幼稚園の子どもたちや先生方、そして、近隣のみなさまにお贈りしています。（関東）
- ◇〔修学旅行〕本校では、6年生が長崎に修学旅行に行きますが、直接被爆地に立ち、被爆者の話を聞き、なまなましい展示に触れることで、かつて日本に実際に起きた事実としっかり向き合う体験をします。高学年であれば、このように現地に行って見て感じるという学びもできるかもしれません。
 - 〔授業〕低学年や中学年では、国語の教科書にある戦争を扱った文学作品（「ちいちゃ

んのかげおくり」「一つの花」など)や戦争を扱った本(「かわいそうなぞう」「ガラスのうさぎ」など)をしっかりと読み解くことも有効であると思います。(関東)

- ◇・来年度より、児童の平和学習委員会を設立し、その委員会の児童が主体的に平和とは何かを考え、全校児童を巻き込んで活動する予定。講演会を計画したり勉強会を計画したり、戦争だけにとらわれず、子どもたちが考える平和について追及する委員会。
 - ・2年後より、沖縄平和の旅として、6年生が沖縄の修学旅行に行く予定。
 - ・前述したが、6, 7, 9月は平和教育月間として、礼拝は平和をテーマに行う。
 - ・教科のカリキュラム以外に、平和教育に特化したカリキュラムを作成して、全教員がそのカリキュラムを見れば、学校全体でどのような平和教育が行われているか分かるようにした。(関東)
- ◇・長崎へのヒストリーツアー(5年生 事前学習・学習発表会で報告を含む。)
 - ・見えるものから見えないものを見ることができるようにするための教員の研修会(現地でのフィールドワーク)
 - ・7月の平和教育の授業は、発達段階に合わせて全学年で行う(例:3年生「ちいちゃんのかげおくり」から学ぶ)
 - ・中村哲先生から学ぶ(12月第一週目の礼拝)
 - ・学習発表会での発表(5年生)
 - ・講師をお呼びして話をしていただく(平和活動家の方)(西南)

【中学校・高等学校】31件

- ◇・平和祈念礼拝
 - ・研修旅行での訪問と事前学習(2年生) 沖縄、広島、韓国、フィリピン
 - ・「憲法を学ぶ会」(2004年より) 憲法に謳われる理念に関する諸問題について講演を通して考えるきっかけを提供 過去のテーマ例『イラクから見る日本～暴力の連鎖の中で考える平和憲法』(2015)、『憲法出前授業～18歳選挙権と私たちの未来～』(2016)、『君たちと憲法～どうして憲法が必要になったのだろうか～』(2017)、『家族と平等』(2018)、『アイヌ民族と差別・人権』(2021)、『被爆体験談を通して平和を考える』(2023)(東北・北海道)
- ◇・聖書科授業(平和について)
 - ・キリスト教週間(11月)「平和とは」をテーマに教員や生徒がお話を担当
 - ・高2スタディツアー(沖縄・台湾・カンボジア 11月)(東北・北海道)

- ◇・「平和」の授業を開始（学園平和宣言、アウシュビッツ、従軍慰安婦、731部隊、日米の視点での原爆投下 他）
 - ・修学旅行や事前授業（沖縄戦の歴史や被害の状況、基地問題、平和祈念公園での平和集会）（東北・北海道）

- ◇・高3 聖書：ホロコーストを取り上げる単元（毎年）
 - ・全校修養会：2024年は平和を主題に、桃井一馬先生の講演会（全学年）
 - ・戦時下の本校の記録展示（常設、校内外）
 - ・中1 聖書：函館空襲に関する学習と卒業生手記を教材とする授業（毎年）（東北・北海道）

- ◇・高校礼拝（全校生＝1～3年生対象）

8月の礼拝を平和礼拝として位置づけています。今年度は夏休み明けの8月27日と9月10日に平和礼拝を二度にわたって行って外部講師を招き、平和について生徒と一緒に学ぶときを持ちました。一度目：山口県の岩国で牧師を務め、現在は北海道の日本基督教団岩見沢教会で牧師をしておられる大川清先生（岩国の米軍基地、沖縄が負わされている課題）、二度目：台湾基督長老教会から日本基督教団北海教区に派遣されている宣教師のディヴァン・スクルマン先生（台湾の少数民族の視点から、17世紀以降に台湾が植民地化されてきた問題について）

 - ・ボランティア活動（高校1年生対象）

隣人愛の実践としてボランティア活動と国際交流を大切にしており、今年度も「できることから、ボランティア／『愛の実践活動』」を6月に実施しました。施設などを訪れたりすることで、隣人愛を実践し、その活動を通して、隣人愛を通じて身近な平和（積極的平和）を経験する機会として行っています。（東北・北海道）

- ◇「キリスト教教育週間」（毎年5月に中高全体を対象）

期間中の1日を「全日行事」として講師をお招きしご講演いただいています。年によって平和や人権、共生等、主題は変わります。

〔講師（肩書はご講演当時）と演題の紹介〕

 - ・2021年 安田菜津紀氏（D4P 副代表）『紛争地、被災地からの声を伝える』
 - ・2023年 藤田千代子氏（パシャワール会 PMS 支援室室長）『そこにあるいのち』
 - ・2024年 ウイリアムズ郁子氏（英国国教会司祭、聖路加国際病院非常勤チャプレン）
『赦しの愛～和解への希望～』
 - ・2025年 ダニー ネフセタイ氏（平和活動家、木工房ナガリ家主催）『どうして戦争しちやいけないの？』（東北・北海道）

◇・平和七夕について

仙台七夕まつりは、8月6日から3日間行われます。その初日が原爆被災の日であることに気づいた仙台YMCAのメンバーたちが50年前に始めた取り組みです。七夕まつりの当日は、折り鶴で作った七夕飾りを商店街に掲げ、首飾りを配布します。本校はそのスタート期からこの取り組みにかかわっており、現在では全校生徒で折り鶴を折っています(約1万2000羽)。

・平和をテーマにした礼拝、聖書の授業(7月・平和七夕に合わせて)

今年は、宗教部の生徒が50回記念の講演会とパネル展の企画運営、商店街での首飾り配布の奉仕、教会での平和七夕飾りづくりの作業などを行いました。

※参照記事や動画があります。詳しくは教育同盟事務局にお問い合わせください。

(東北・北海道)

◇・「沖縄平和学習」

高2生全員による「語り部」を初等部のホームルーム礼拝、中高等部のチャペルアワーにおいて行っています。

・聖書科授業におけるディベート「憲法9条」を高2生が行っています。(関東)

◇・修学旅行(高校2年)

「キリスト教・平和」をテーマに長崎の原爆資料館や、大浦天主堂を訪問している。

・論文執筆

高校1年後半から2年の1年間をかけて全生徒が「平和・共生論文」の執筆を行っている。「平和・共生」を大テーマとして、各自が関心のある分野を研究し、論文を書き、3年生に始業式に提出している。

・礼拝

ウクライナ侵攻が始まった2022年から、毎月一回平和を覚えて祈る礼拝をささげている。「平和」をテーマにした奨励と讃美歌、聖フランシスコの祈りをささげている。

(関東)

◇・平和講演会

毎年1回、全学年生徒を対象にした「平和講演会」を実施しています。戦争体験者や研究者、作家を招いて話を聴き、感想文を書いています。

・「ひろしまの旅」

高校1年生全員を対象にした2泊3日の「ひろしまの旅」を40年来、実施しています。広島平和資料館の見学や被爆証言者のお話を聴き、フィールドワークを行い、考えたことを全体会で共有します。生徒はレポートを提出します。現在は「総合」の一環となっています。

(関東)

◇・探究学習

本校では中高の探求学習のテーマとして「平和」が設定されています。中1から高3までが対象です。中学校では通常の探求学習と同様調べ学習やプレゼンテーションが中心ですが、高校では平和には様々な尺度があり、個人の平和が社会、世界の平和への連続性を持っていることを念頭に個人探求を行っていきます。

- ・礼拝 毎年9月に「平和の日礼拝」を捧げています。
- ・高校授業 日本史の授業「満州移民」をテーマにした授業が行われています。
高校3年生対象に「国際理解」という授業を行っています。 (関東)

◇平和学習プログラム（対象：中学3年～高校3年）

毎年11月に実施（戦争、平和、人権などテーマは多岐にわたる）

- ・2025年度 「1から考えてみる～アイヌ民族と和民族（日本人）と「私たち」～」
北海道大学 北原モコットウナシ先生
- ・2024年度 沖縄、基地の街の女の子たちの調査から 琉球大学 上間陽子先生
- ・2023年度 東京クルド 日向史有監督
- ・2022年度 朗読劇・講演 オープンリーゲイの劇団 関根信一先生
- ・2021年度 インドシナ難民 トルオン・ティ・トウイ・チャン先生 (関東)

◇・各学年 毎学期のキリスト教講演会における講演（外部講師による）

- ・キリスト教週間におけるマルチイベント（外部講師による）
- ・沖縄修学旅行と事前事後学習（高校3年）
- ・スタディツアーにおける広島と瀬戸内ハンセン療養所訪問（高校希望者）とその事前事後学習
- ・ベトナム・スタディツアー（高校希望者）とその事前事後学習 (関東)

◇参加任意の平和学習（広島平和学習・沖縄平和学習・長崎平和学習） (関東)

◇・中3研修旅行では広島を、高2研修旅行では長崎を訪問し、被爆者の方の講演や平和資料館訪問を含め、平和について考えます。

- ・ベトナム・スタディツアー（高1、高2）ではクチ・トンネルや戦争証跡博物館を訪問し、ベトちゃんドクちゃんのお一人として知られるグエン・ドクさんからご自身の経験を伺いました。

◇・「祈りを捧げる礼拝」

学期に一回～二回、必ず行っている。普段は平和についてを必須とは定めていないが、戦争・平和についての内容を入れる生徒が大半で、それぞれ、ウクライナやガザ、ミャンマーなどについての祈りを捧げている。

・国語科授業

中1・中2は1学期の終わりに国語で戦争に関する作品を扱い、夏休みに広島と長崎の祈念式典を見ることを宿題にしている。中1は主に「平和宣言」や「子ども代表の平和への誓い」を聴いた感想を作文として提出し、中2は、「わたしたちは戦争体験をどのように受け止め、引き継げば良いのか」をテーマに作文を書いている。(関東)

◇・土曜集会〔本校講演会企画〕(対象中高各校生徒、学校行事)

- ・長崎修学旅行事前学習(対象中学2年生、宗教授業、学年LHR)
- ・沖縄修学旅行事前準備(対象高校1年生、宗教授業、学年LHR)
- ・平和提言集募集・発行(対象中学1年生～高校3年生有志、校長企画、隔年実施)

(関東)

◇・高2沖縄修学旅行の事前学習を高1の5月、11月に実施

- ・高2修学旅行後の生徒による報告礼拝
- ・世界各国からの年間留学生、短期留学生の受け入れ(主に高校生)
- ・フィリピンの子供への学費支援(チャイルドファンドジャパン)(全学年)
- ・週1回の献金活動(全学年)

(関東)

◇毎年、7月と9月に平和学習で、中学は、広島関係の映画、高校生は、世界情勢の中で起こっている映画を見ている。(関東)

◇・(広義の平和教育になりますが、)全校6学年集まったの国際理解週間・特別礼拝、ハンセン病を正しく理解する週間・特別礼拝。

- ・春休みに有志で行われる春季修養会(長崎信仰と平和の旅)

◇・高3修養会で沖縄に行った。事前学習も含め平和学習に取り組んだ。

- ・高1は社会科特別授業で講師(戦場ジャーナリストの佐藤和孝氏)を招いて学習した。

(関東)

◇・修学旅行

中で広島に、高2で長崎に行く。修学旅行では、事前学習として、原爆投下による被害だけを取り上げるのではなく、日本における加害の歴史や、現代も続いている戦争による悲惨な状況や、諸問題についても学ぶ。

・講演

2022年のロシアによるウクライナ侵攻のため、首都キーウより、戦火を逃れて来日された方があり、現在、ウクライナへ「民から民へ」の人道支援を行っている。その活動をしている「ジャックユー」という団体の方から、定期的にウクライナの現状の報告を聞いたり、他にも、ウクライナから来日し、日本に滞在されている方のお話を聞く機会を持ち、全校で献金を捧げてきている。

・観劇

2019年より隔年で、本校演劇部による『Put on…』が上演され、全校で観劇する。『Put on…』は、戦時下で、実際あった金城の物語を劇にしたもので、戦争に巻き込まれてゆく、キリスト教学校であり、女子校という立場ゆえの苦悩が描かれており、実感をもって、戦争の恐ろしさと平和の尊さを自分事として学ぶ。

・献金礼拝

隔月で献金礼拝を全校で捧げており、その際に、「国際協力を覚えて」、「能登半島地震支援を覚えて」、「ウクライナ支援を覚えて」などのテーマを定めている。礼拝では、各テーマに基づいた、平和のメッセージが語られる。献金は、日本だけでなく世界で平和の活動をしている諸団体に送っている。 (関西)

- ◇ ・中3研修旅行(長崎)平和公園で礼拝をささげ、資料館をまわります。
 - ・高2修学旅行(沖縄)平和の礎やガマ、ひめゆりの塔を訪れ、お話を聴きます。 (関西)

- ◇ ・中学2年長崎研修旅行(開校以来実施)
 - 平和講演・原爆遺構巡り・活水高校との交流・平和祈念礼拝
 - ・高校2年沖縄研修旅行(開校以来実施)
 - 平和講演・ガマ見学・戦争遺構見学。基地見学・平和祈念礼拝
 - ・Peace Week(平和について考える週間行事)
 - 絵本展・資料展示・ワークショップ
 - ・各教科での研修旅行事前学習
 - 戦争教材・ガイドブック作成・長崎史・沖縄史 など (関西)

- ◇ ・広島YMCAユースピースセミナーへの参加
 - ・大阪国際ピースセンター(ピースおおさか)見学
 - ・大阪城公園戦跡巡り(フィールドワーク・特別活動など) など (関西)

- ◇ ・中学3年生の修学旅行
広島・長崎での平和学習をテーマとしています。社会科の授業では平和アピールの作成、聖書科の授業では広島・長崎の被爆についての学びを行い、旅行中の広島では、広島女学院中高のご協力により記念礼拝を、また高校の生徒さんのガイドによる碑めぐりを行っています。
 - ・高校2年生のキリスト教学Ⅰ
731部隊をはじめとする日本の加害行為についても学んでいます。 (関西)

- ◇ [高校] 広島研修(1年)、呉・大久野島研修(2年)、沖縄研修(3年)、韓国研修(希望者)、「日本の戦争責任を考える特別授業」(毎年2月11日) (関西)

◇・7月の礼拝テーマを「平和を実現する」とし、毎朝の礼拝で奨励者が平和に関するメッセージを行っている。

・聖書の授業の中で、第二次世界大戦とホロコースト、ヒロシマ・ナガサキ、沖縄戦を取り上げた。

・能登半島地震の被災地を生徒たちと訪問し、被災者と交流したり、被災状況を視察することを通して被災者の平和について考えた。 (関西)

◇・沖縄平和研修旅行(中3)のための平和学習を1年間行った。(授業や礼拝、沖縄の関係者を招いての講演会等も連動して行う)。

・キリスト教教育強調日(全校生徒、全教員対象)において二日間早天準備祈禱会を守り、平和を希求する祈禱を生徒が自主的に献げた。

・クリスマス献金を献げる諸団体(20団体以上)が行っている平和活動について、12月から毎朝の礼拝の中で生徒会役員がアピールした。

・本校は生徒の探究活動を6年間行っており、高校2年生には課題設定を自主的にさせている。そこでは平和(社会貢献)についての課題に取り上げる生徒が多かった。6年かけて平和について段階的に学び、活動させている成果だと考える。 (西南)

◇・修学旅行

中学3年生の修学旅行は沖縄を滞在地とし、事前学習として中1からそれに向けての平和教育を行っている。沖縄修学旅行はその集大成的役割を果たす行事となっている。

・礼拝や講演

チャペルや特別チャペルでは、戦争体験者や研究者をゲストにお招きすることもある。

・国際交流

韓国の教会との生徒交流を毎年実施。本校の生徒が韓国での平和交流体験をしたり、韓国からの子どもたちを長崎に連れて行ったりする活動を20年続けている。 (西南)

◇・平和祈念集会(毎年8月9日)

礼拝、特別講演(外部講師)、学年代表生徒意見発表、折鶴の奉献、11:02黙禱、平和宣言(平和学習部作成)、校長講話

*この集会の「折り鶴奉献」に向け、1学期中に、全学級で折り鶴に取り組む。

*学年代表の生徒を選び、発表の作文に取り組む。

*平和学習部が平和宣言を準備する。

・中学校2年生「総合的学習の時間」

学年の年間テーマを「平和・人権」として展開。学校周辺の被爆遺構の事前調査、フィールドワーク、他学年とグループ別の遺構案内の活動を展開。

・修学旅行に伴う学習

中学2年生での沖縄修学旅行の実施時期(現在は実施地を変更)には、第二次大戦下の

沖縄戦の様子について学習を展開。

- ・被爆以降の学習と保全

高校全学年で、学年別に時期をずらし、事前に学校周辺の被爆遺構について学習。その被爆遺構を分担して訪ね、周辺の清掃、保全に寄与する「いしづみもり活動」を実施。

- ・平和学習部

高校に部活動として「平和学習部」を持ち、部員生徒が他校との連携もしながら、地域をはじめ国内外の平和集会・活動・行事への参加、核兵器廃絶1万人署名活動、ふりそでプロジェクト、ピースボランティア、修学旅行団体等との交流などの活動をしている。

(西南)

〔大学・短期大学〕5件

◇「平和学」授業（平和観・核軍縮について）

本学の海外協定校で1948年に世界で初めて平和学専攻を設けた米国アメリカ・マンチェスター大学における平和学プログラムの紹介や、核軍縮をはじめとする地球的問題群をについて考える講義。学生は平和観や核軍縮のあり方等について、自らが考えたことをまとめて最終レポートを提出する。

(東北・北海道)

◇・礼拝と交流

礼拝では（全学生対象ですが、特に1年生が中心）、インドの農村の農業指導および日本基督教団派遣宣教師として働いておられる卒業生の三浦照男先生（インド・サムヒギンボトム大学継続教育学部長・教授）お招きし、インドにおける平和の問題を通して学生たちに国際社会の平和と聖書が語る平和について分かち合うときを持ちました。また、年に二度、20～30名の韓国の学生たちに来ていただき、特別プログラムの礼拝と懇親の時間を持っているのですが、そこでは韓国と日本の歴史と現在を踏まえつつ、韓日の学生が実際に出会うことによって、東アジアの平和を実践することが真の文化交流と国際交流であることを経験できるように願いつつ行っています。

- ・小冊子でのメッセージ

入学式と学位記授与式（卒業式）にそれぞれ新入生と卒業生および保護者に配布する小冊子の『出会い』を作成しています（大学キリスト教委員会担当）。その冊子の入学式号において宗教主任が戦後・敗戦80年を覚えたメッセージを寄稿し、2025年度が今まで以上に平和を特に大切に一年であることを伝え、ガザやウクライナを覚えるときとして2025年度を過ごしました。

(東北・北海道)

◇隣人愛の実践

(東北・北海道)

- ◇・2年生・全学科対象に「リベラルアーツ総合（平和）」授業を開講
 - ・3年生「キリスト教と現代社会」「キリスト教教育論」授業の中で「平和思想／平和教育」を主題とした授業回とワークの実施
 - ・同法人の中学校ロングホームルームに、大学教員が「平和学習」で出前授業
 - ・大学宗教センター企画による平和（広義に捉えて積極的平和までを主題とした）フィールドスタディ（東北・北海道）

- ◇・「キリスト教講座」

これまでも、戦時中の本学（女学校）の体験を取り上げた大学・中学連携のプログラムを組んでいる。

 - ・授業「キリスト教」「キリスト教と現代社会」「キリスト教教育論」

聖書の平和思想を紹介すると同時に、ガルトウングの「積極的・消極的平和」の理念等も教えている。そのほか平和をテーマにするリベラルアーツ総合授業を持っている。

 - ・礼拝説教

平和・戦争の問題についてしばしば取り上げている。また、大学聖歌隊の演奏曲目にボンハッファー作詞の讃美歌などを入れ、その由来についてメンバーにも説明している。

 - ・「チャペルレター」

大学宗教センター発行のニュースレター「チャペルレター」では、毎年夏には戦争と平和について考えるメッセージを掲載している。25年夏には、県内（東松島）にある特攻艇基地跡について取り上げた。（東北・北海道）

- ◇「アンネのバラ」を用いた平和を覚えるチャペル礼拝の開催

「アンネのバラ」の由来を学び、キャンパス内の「アンネのバラ」の手入れや水やりをしたり、新たに苗木を育てて、地域に毎年20本ずつ配布している。（関東）

- ◇ 沖縄で平和活動に携わるゲストスピーカーによる講義（大学1年生）（関東）

- ◇戦後直後に創立した本学は、創立者・清水安三の「平和精神」を基盤に創立されている。建学の精神「キリスト教精神に基づく国際人の育成」の言葉の中に「平和精神」が含まれていることを必修授業である「キリスト教入門」の中で教えている。（関東）

- ◇宗教週間

2024年度の宗教週間（各学期の一週間）では、「平和・愛・いのち」をテーマに掲げ、前期はロングチャペル（月曜から金曜の1限目と2限目を短縮授業とし10分長い礼拝時間を確保）、後期は宗教講演（90分）を通して、平和教育を行った。（関東）

- ◇・海外研修

学生参加の韓国研修を実施し、戦時下の朝鮮半島におけるキリスト教会の抵抗運動に学んだ。

・チャペル・アワー

大学は各学期に統一テーマを設定しているが、2025年度春学期統一テーマを「驕る者は低くされ 心の低い人は誉れを受けるようになる。」(箴言 29 章 23 節より)として、平和をテーマとした奨励を随時した。(関西)

◇「平和学特別演習」

他に、年二回、宗教週間として大学合同チャペルを行っているが、その際、平和をテーマに講演くださるよう講師に依頼することが多い。(関西)

◇・チャペルアワーにおける週テーマ「平和」の設定

チャペルアワーでは、週ごとにテーマを設定している。本学では毎年沖縄の「命どう宝」の週 6/23 前後の週テーマを「平和」とし、平和について考える機会を提供

・沖縄での平和学習コロナ禍前まで複数の大学と共催で実施

・バイラー大学学生との平和学習アメリカで戦争に行ったことのある方、日本で戦争にいったことのある方、双方から戦争の悲惨さや経験を学生が聞き取り、オンラインを通じて発表し合うもの(西南)

◇長崎での8月9日は特別な日です。学院として平和を願う「平和祈念礼拝」を行っています。

〔授業〕

1年生の前期に必修授業である「建学の理念と歴史」という授業で、原子爆弾の被害や悲惨さをはじめ、平和をテーマにした内容を行っています。またボランティア活動として原爆で被爆し亡くなられた方を火葬した場所が現在公園になっているのですが(諫早市百日紅公園)、そこの清掃活動を年に2回、被爆者二世の会の方たちと行っています。(西南)

〔学園行事〕1件

◇学園では、クリスマスに生徒、学生、教職員の全体に献金を呼びかけ、集まった献金をガザのアハリーアラブ病院を支援する会をはじめとする海外の平和のための募金として送っています。特に、高校では生徒たちが自主的に募金を集める活動もしていることを付記しておきます。(東北・北海道)